

図書館の貴重コレクション展

ごあいさつ

大倉精神文化研究所附属図書館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館です。

創立者の大倉邦彦は、多くの人々に「心について学ぶ」精神文化の専門書を読む機会を提供することにより、人格を磨き、清い心、正しい心、強い心を持って社会をよくする有為な人材を育てたいと考えて図書館を創りました。

現在、附属図書館には、哲学・宗教・歴史・文学などを中心とする約 10 万冊の蔵書があります。その中には他の図書館では所蔵していない希少性の高い資料が沢山あります。しかし、これまでは図書カードによる検索しか出来なかったために、中には、その存在がほとんど知られることなく、長い間書庫の中で眠っていた貴重資料もあります。

しかし、今回蔵書のインターネット検索を開始したことにより、やがて財団が所蔵するすべての資料が、皆様の精神文化研究のために活用されることとなります。

そこで、今回は、インターネットでの蔵書検索開始を記念して、附属図書館の書庫に収蔵する貴重コレクションについて、広く知って頂く展示会を開催することにいたしました。

◆会場：大倉精神文化研究所附属図書館の閲覧室と公開書庫

◆会期：10月30日（水）～12月27日（金）

※11月3日（日）と4日（月）を除き、日曜・月曜・祝日はお休みです。

◆開場時間：午前9時30分～午後4時30分

◆お問合せ先：大倉精神文化研究所 TEL 045-834-6637

主催：公益財団法人大倉精神文化研究所

1、財団所蔵の資料群 — 書庫の中に何があるんだろう？ —

(1) 附属図書館蔵書

附属図書館の蔵書は 10 万冊です。その内訳は、①一般図書 6 万冊、②貴重コレクション 4 万冊です。精神文化に関する貴重コレクションが、図書全体の 4 割を占めているのが、専門図書館としての特徴です。その他に、③雑誌 860 タイトル（約 5 万冊）を所蔵しています。

(2) 研究所沿革史資料

研究所沿革史資料は、当研究所の設立準備を始めた大正末年から現在までの活動記録です。寄贈図書目録や附属図書館の事務資料も含んでいます。

附属図書館の書庫						
(1)附属図書館蔵書			未 登 録 の 資 料	(2)研究所沿革史資料		
①一般図書 6万冊		②貴重コレクション		④資料	⑤書翰	⑥ハガキ
公開書庫 12,000冊	閉架書庫 48,000冊	23種 4万冊		12,000点 (7万レコード)	2万点	3万点
「図書原簿」10万冊						

2、貴重コレクションの紹介

	請求記号	コレクション名	冊数
1	イア	貴重書	337冊
2	イイ	古文書古記録影写副本	280点、759冊
3	ウア1	大名榊原家文庫	449点、3,957冊
4	ウア2	松井等旧蔵文庫	4,833冊
5	ウ3	金沢甚衛旧蔵資料	516点
6	エ1	タゴール文庫	約250冊
7	エ2	水野梅暁寄贈書	6冊
8	エ3	岩波茂雄寄贈書	523冊
9	エ4	根本剛蔵寄贈書	143冊
10	エ5	菅礼之助寄贈書	43点、65冊
11	エ6	北島亘寄贈書	71冊
12	エ7	今泉定助寄贈書	41冊
13	エ8	沼田喜雨太郎寄贈書	87点、172冊
14	エ9	名古屋大周寺文庫	約4,000冊
15	エ10	葛巻常四郎寄贈書	190部、424冊
16	エ11	西晋一郎寄贈書	52点、92冊
17	エ12	上田虎甲寄贈書	5点、79冊
18	エ13	服部富三郎旧蔵書	281点、435冊
19	エ14	大倉邦彦旧蔵文庫	和書約3,000冊
20	エ15	旧制高等学校文庫	約2,200点
21		洋書コレクション	約9,000冊
22		道歌コレクション	103冊
23		和装本コレクション	約7,000点

1 貴重書

分類番号：イア 点数：337 冊

「イア」は、附属図書館の開設準備当初から「購入貴重書」として分類されているコレクションです。

その内訳は、昭和初期に日本の古書店で購入した資料が大半であり、中でも、伊勢貞丈の有職故実書が全体の3分の1（119冊）を占めています。

若干ですが、寄贈書も含まれています。

他のコレクションに分類されている資料の内から、特に貴重なものを一部だけ抜き出して、貴重書としたものもあります。たとえば、大倉邦彦と秘書原田三千夫が大正15年（1926）からの欧州旅行において、現地の古書店で購入した洋書の一部79冊（大半は洋書コレクション）とか、大名榊原家文庫（ウア1）の内、榊原忠次の印のある『大鏡』『水鏡』『増鏡』『神皇正統記』も貴重書に分類されています。

2 古文書古記録影写副本

分類番号：イイ 点数：計280点 759冊

大倉精神文化研究所では、その建設準備中だった昭和4年（1929）4月、東京帝国大学史料編纂所内に古文書古記録副本作製部を設置します。

当時、史料編纂所では、『大日本史料』『大日本古文書』編纂のために、貴重な資料群を全国の旧家・神社・仏閣などから借用していました。研究所は、その中から精神文化に関する良書の副本作製を昭和13年（1938）年3月まで行い、その点数は写筆枚数55,005枚、写真版186枚に及びました。

副本作製の後、原本は持ち主に返却されましたが、戦災等で一部の史料が所在不明になってしまい、副本ではありますが、貴重な史料群です。

3 大名榊原家文庫

分類番号：ウア1 点数：449点 3,957冊

大名榊原家文庫は、徳川家康の四天王の一人とされる榊原康政を藩祖とする大名榊原家（館林・白河・姫路・高田と転封）に伝来した蔵書群です。

当研究所では、昭和4年（1929）に子爵榊原家から蔵書の1部を3,500円で購入しました。蔵書群の総冊数は、「榊原家ヨリ購入ノ図書目録」（沿革史資料No.2589）によると、3,957冊におよびます。蔵書群の構成は、和書が3分の2、漢籍が3分の1という割合です。榊原文庫の目録は、『大倉山論集』第47・48・49輯（平成13・14・15年）に掲載しています。

4 松井等旧蔵文庫

分類番号：ウア2 点数：4,833冊

松井等（1877年～1937年）は、東京生まれの東洋史学者です。東京帝国大学史料編纂掛（後の史料編纂所）から國學院大学の教師となり、61歳で亡くなるまでその職にありました。

松井等は、南満州鉄道株式会社の嘱託時代に、東洋史学者白鳥庫吉の指導を受けたことから満洲史を専攻し、その後、中国近代史の研究にも関心を向け、優れた業績を挙げています。その蔵書は、中国の正史を始めとして、中国史に関する日中両国の研究書が多数含まれています。また、1,000冊を越える洋書も含まれています。

旧蔵書は、昭和12年（1937年）7月に、松井等の遺族より購入したものです。

5 金沢甚衛旧蔵資料

分類番号：ウ3 点数：516点

藤沢市在住だった古文書研究家金沢甚衛（生没年未詳、1890年頃～1980年頃）が収集した史

料の一部です。

金沢甚衛は、1920年(大正9年)頃から古文書の収集を始めて、全国各地の各階層の古文書、総点数約3万点を収集したといわれています。

当財団では、金沢甚衛収集史料の内、509点を所蔵しています。これは、昭和20年7月1日付けで一括登録されています。受け入れの経緯は不明ですが、金沢甚衛は戦時中にコレクションを研究所附属図書館へ疎開させ、その内の一部を寄贈したものとされています。目録は、『大倉山論集』第48輯(平成14年)に掲載されています。

6 タゴール文庫

分類番号：エ1 点数：約250冊

タゴール文庫は、ラビンドラナート・タゴールから直接寄贈された著書159冊と、日本で収集した図書から成っています。

ラビンドラナート・タゴール(1861～1941年)は、「詩聖」と呼ばれたインドの有名な文学者・思想家・芸術家です。1913年(大正2)に詩集『ギーターンジャリ』によりノーベル文学賞を受賞しています。

日本には大正5年(1916)に初来日し、その生涯に5度訪日しています。

最後の訪日は、昭和4年(1929)のことで、大倉邦彦の自宅に約一ヶ月滞在しました。この時、病気になり看病を受けたことに感謝し、帰国後に、自身の著書159冊とモデルシップ等を大倉邦彦に贈っており、この寄贈書がタゴール文庫の中核をなしています。

当研究所ではこの寄贈書159冊の全てのページをデジタル化しており、大倉精神文化研究所のホームページから、閲覧出来ます。

7 水野梅暁寄贈書

分類番号：エ2 点数：6冊

水野梅暁みずのばいぎょう(1877～1949年)は、広島県出身の、浄土真宗本願寺派の僧侶です。東亜同文書院の第1期生であり、大倉邦彦の2年先輩になります。大正13年(1924)に『支那時報』を創刊し、翌年には東京で東亜仏教大会を開くなど、日中の文化交流につくしたことで知られています。水野梅暁の業績については、『東亜同文書院大学史－創立80周年記念誌－』(滬友会、1982年)に詳しく紹介されています。

寄贈図書は、水野梅暁自身が、昭和4年(1929)12月に「先日は難有奉深謝候、其の際御約束致候拙著六冊別便を以て御送附申上置候」ありがたくしんしゃたてまつりそうろう(沿革史資料No.20118)として自身の著作である『支那時報叢書』を大倉邦彦に送ったものです。

8 岩波茂雄寄贈書

分類番号：エ3 点数：523冊

岩波書店の創業者として知られる岩波茂雄いわなみしげお(1881～1946年)からの寄贈図書です。大正12年(1923)から昭和初年にかけての岩波書店刊行物で、その範囲は人文科学・社会科学・自然科学と、多岐にわたっています。

岩波茂雄は大倉邦彦と交流が有り、大倉精神文化研究所の鎮礎式や開所式にも招待されています。

9 根本剛蔵寄贈書

分類番号：エ4 点数：143冊

根本剛蔵ねもとこうぞう(不詳)とは、昭和6年(1931)2月に大倉邦彦から『感想(其七)』を寄贈された田園都市株式会社(東急の前身)の根本剛蔵と同一人物と思われます。この人物は、五島慶太ごとうけいたがていしんしょう通信省から武蔵電気鉄道(東急の前身)に入社させた人たちの1人です。

昭和5年(1930)3月に一括で寄贈されています。寄贈時に本人が自筆で書いた目録「精神文化研究所図書館へ寄贈 書籍目録其二」(沿革史資料No.6209-1-54)が現存します。これには49部計72冊が記されています。ほぼ同数を記した「書籍目録 其壺」がかつて存在していたものと思われます。

寄贈書の大半は、日本で刊行された漢学関係の典籍です。『史記評林』(刊本、延宝二年)『春秋左氏伝集解』(刊本、天和年間)『礼記』(版本、天明七年)『孟子』(刊本、安永五年)等が含まれています。他に、荻生徂徠『大学解』、太田錦城『論語大疏』、藤田幽谷『藤田幽谷先生詩集』、塩谷宕陰『籌海私議』等の写本も注目されます。

10 菅礼之助寄贈書

分類番号：エ5 点数：43点 65冊

菅礼之助(1883~1971年)は、秋田県雄勝町(現湯沢市)出身で、帝国鉱業開発社長や石炭庁長官、東京電力会長、日本原子力産業会議長などを歴任し、戦前戦後においてエネルギー産業をけん引した実業家です。

また菅は、「菅裸馬」と号した俳人でもあり、正岡子規門の青木月斗が創刊した俳誌『同人』で活躍、青木没後の昭和24年(1949)には同誌を主宰するようになります。(『神奈川県史 別編1人物』、神奈川県民部県史編集室、1983年)。研究所との関係では、昭和34年(1959)から3年間、大倉精神文化研究所の評議員を務めていました。

寄贈書は、菅が古河合名会社の理事をしていた昭和5年(1930)に一括して寄贈されたもので、西洋哲学書の和訳本が大半を占めています。

11 北島亘寄贈図書

分類番号：エ6 点数：71冊

北島亘(生没年未詳)による寄贈図書です。

北島亘についての詳細は不明ですが、ペンシルヴァニア州の神学校やアリゲニー大学などで神学、哲学を学んだ後、日本に帰国し、ユニテリアン・ミッションの教師、日本銀行員を経て大正期以降は東京株式取引所取引員になった人物と推測されます。

当研究所には英文書籍62冊、日本語書籍9冊の計71冊の書籍が収蔵されています。キリスト教や聖書に関する書籍がその大半を占めており、特にユニテリアン主義についての書籍が数冊含まれていることから、北島が神学校時代に使用した書籍群であることがうかがえます。

当研究所への寄贈は昭和6年(1931)ですが、その受入れ経緯に関してはいまだ明らかにはなっておらず、現在調査中です。

12 今泉定助寄贈書

分類番号：エ7 点数：41冊

今泉定助(1863~1944年)は、宮城県出身の古典学者、神道思想家、教育者です。前名は定介。明治神宮奉斎会会長、日本大学皇道学院院長、東洋文化研究所講師などを歴任しています。

大倉精神文化研究所では、昭和7年(1932)に嘱託として名を連ねています。また、昭和9年からは『神典』編纂の相談役を務めています。

寄贈書は、『増訂故実叢書』(昭和3~6年刊)40冊とその索引1冊です。故実叢書は、平安朝から近世にわたる有職故実に関する一大叢書であり、今泉が編者となり、明治30年代に刊行されました。関東大震災のために一時絶版となったため、和田英松等が旧版を増訂して昭和3年から刊行しました。寄贈書は、この増訂版です。

13 沼田喜雨太郎寄贈書

分類番号：エ8 点数：87点 172冊

沼田喜雨太郎（生没年未詳）は、昭和4年から13年（1929～38）まで図書謄写係として大倉精神文化研究所に雇用されており、東京大学史料編纂所内に設置されていた副本作製室で働いていました。

寄贈書は、日本で刊行された版本の仏書や、荻生徂徠等の儒者の著作、洋装本やゲーテ・ニーチェ・トルストイ等の著書の洋書で構成されています。昭和8年（1933）に寄贈されて、「沼田喜雨太郎寄贈書名目録」（沿革史資料No.8222-21）が作られています。

14 名古屋大周寺文庫

分類番号：エ9 点数：約4,000冊

大周寺は、明治44年（1911年）に神谷大周が亡父50年忌追善供養のために名古屋市南区（現、熱田区）に創建した寺院で、神谷大周の隠居寺でした。正式には、深照院至玄山大周寺といい、宗派は浄土宗です。

神谷大周（1841～1920年）は、愛知県出身で、明治から大正時代に活躍した浄土宗の僧です。浄土宗東部宗学校教授、東京深川の靈巖寺住職、宗学本校教授などを歴任し、著作に『選択宗要義』『結縁五重筌諦』等があります。

文庫は、大周寺に保管されていた神谷大周の旧蔵書です。昭和6年（1931）11月に、大周寺住職小笠原嶺旭の「社会多数の人々の利用に供し度存候」との考えで、神谷大周の知人で仏教学者の友松円諦に処理が一任され、大倉精神文化研究所に寄贈されることになりました。

内容は、江戸時代初期から明治時代初期にかけて刊行された、経典や各宗派関係仏書の木版本です。訓点が施されていることから、経典等がわが国でどう読まれていたかを知る上で、一つの資料を提供するものとも思われます。

15 葛巻常四郎寄贈書

分類番号：エ10 点数：190部 424冊

葛巻常四郎（生没年未詳、1936年没か）は、昭和4年（1929）3月から昭和11年（1936）5月まで、図書謄写係として大倉精神文化研究所に雇用されていました。東京帝国大学史料編纂所内で史料の筆写を行う一方、無窮会所蔵の古文書を謄写するために出張もしていました（沿革史資料No.1658-27-4）。

寄贈書は昭和11年（1936）5月に妻の葛巻つな子から寄贈されました。四書五経の経書や十八史略、中江藤樹・頼山陽ら陽明学者の書籍といった儒教関係の書物、臨済宗関係の書物などが大半を占めております。

16 西晋一郎寄贈書

分類番号：エ11 点数：52点 92冊

西晋一郎（1873～1943年）は、鳥取県出身の倫理学者です。京都帝国大学の西田幾多郎と共に“両西”と呼ばれ、倫理哲学界の重鎮でした。

西晋一郎は、昭和15年（1940年）まで広島高等師範学校（後に広島文理科大学）教授を務めましたが、在職中の昭和10年（1935）に当研究所の顧問（嘱託か）となりました。その後は、研究活動の指導をしたり、上京の都度研究所を訪れるようになり、研究所と深く関わるようになります。昭和15年より開始した大日本精神史の編纂事業では、編集部長に就任します。亡くなる昭和18年（1943）には理事も務めました。

西晋一郎は、自身の著作も図書館に寄贈していますが、それに加えて、昭和11年頃より古書店からの購入代金を支払うという形で、何度も古書を寄贈しています。しかし、それらの古書は本コレクションに含まれていません。

西晋一郎寄贈書は、昭和 14 年 (1939) に 200 円近い金額を西が支払う形で各地の古書店から買い集めた神道関係の古書類であり、目録として、昭和 15 年 3 月「西晋一郎博士寄贈 神道書目録」(沿革史資料No.1680)が作られています。

17 上田昶寄贈書

分類番号：エ 12 点数：5 点 79 冊

上田昶(こうカ、生没年不詳)は、退役陸軍中佐だった人物で、当研究所への蔵書寄贈は、古川慈良氏の紹介によるものであったことがわかっていますが、詳細は不明です。なお、古川氏についても調査中ですが、昭和 14 年(1939 年)3 月に研究所で行われた外部講師 招聘研究座談会で講師を務めたことが、事業報告から確認できます。

寄贈書は、戦史関係の書物と日本教育文庫から構成されており、昭和 15 年(1940 年)2 月 12 日に寄贈されています。コレクションとして登録された書籍類の他、ロシアやソ連関係の雑誌類も一括で寄贈されました。

18 服部富三郎旧蔵書

分類番号：エ 13 点数：281 点 435 冊

服部富三郎は、文久元年(1861 年)に名古屋で生まれ、尾張藩の藩儒佐藤牧山の下で儒学を学びました。のちに広島高等師範学校の教授となり、服部拱・服部悔庵とも称しました。本コレクションは、服部の没後、大倉精神文化研究所の研究員であり、服部と広島高等師範学校の同僚で、同郷でもあった新見吉治の斡旋により、子息の服部有恆から当研究所へ寄贈されました。

その内容は山崎闇齋門流の著作が大半で、中でも服部の郷里である名古屋の崎門学派の文献が多いことが特徴です。

旧蔵書の目録は、「服部悔庵氏旧蔵資料目録」(沿革史資料No.1685 他)があります。『大倉山論集』第 51 輯にも目録を掲載しています。

また、阿部隆一「大倉山文化科学研究所々蔵 崎門学派著作文献解題」(『大倉山論集』第 6 輯、昭和 32 年 5 月)は、本コレクションを中心として当研究所が所蔵する崎門学派の著作 320 点についての、詳細な解題です。

19 大倉邦彦旧蔵文庫

分類番号：エ 14 点数：約 3,000 冊

研究所の創立者大倉邦彦(1882~1971 年)の旧蔵書です。蔵書は大倉邦彦の没後、美枝子夫人が保管していましたが、平成元年(1989 年)1 月に美枝子夫人が亡くなり、遺族から当研究所へ一括で寄贈されました。

内容は、邦彦自身が強い関心を持っていた禅学を中心とする仏教哲学、社会教育や思想関係の図書などが多数を占めています。約 3,000 冊の旧蔵書のうち、洋装本の和書 2,552 冊については『大倉邦彦旧蔵書目録 和書』(大倉精神文化研究所、平成 4 年)が刊行されています。

なお、大倉邦彦の旧蔵書は、これ以外にも、邦彦が生前にラビンドラナート・タゴールから贈られた著作 159 冊が、「タゴール文庫」として貴重コレクション(エ 1)に収められています。

また、一般図書の中にも「大倉邦彦蔵書」の押印のある本が多く見受けられますので、生前から多数の蔵書を附属図書館に寄贈していたと思われます。

20 旧制高等学校文庫

分類番号：エ 15 点数：約 2,200 点

旧制高等学校とは、高等学校令にもとづいて設置された学校で、明治 27 年(1894)から昭和 25 年(1950)まで存在しました。

現在の高等学校とは違って、大学教養課程に相当する高等教育機関でした。

旧制高等学校文庫は、旧制高等学校資料保存会が『資料集成 旧制高等学校全書』全8巻と『旧制高等学校全書』全9巻を編纂するために収集した図書や資料類です。

『旧制高等学校全書』刊行後の平成元年（1989）に、同会より寄贈されました。

目録として、『旧制高等学校文庫目録 付 六高・山岡^{やまおかのぞむ}望 関係資料目録』（大倉精神文化研究所、平成6年新訂3版）を刊行しています。

21 洋書コレクション

点数：約9,000冊

大倉邦彦は図書館建設を思い立つと、各分野の専門家に集書リストの作成を依頼し、自身は大正15年（1926）秘書の原田とともに欧州へ図書館や教育施設などの視察へと旅立ちます。その際、イギリス・フランス・ドイツなどで直接買い付けた8,600冊の洋書がコレクションの始まりです。その後も増加し、現在では約9,000冊になっています。1578年刊行の『プラトン全集』や、大倉精神文化研究所本館（大倉山記念館）のプレ・ヘレニック様式に影響を与えたと言われているペロー、シピエ共編『古代美術史』全8冊などを含む貴重なコレクションです。

22 道歌コレクション

点数：103冊

道歌とは、道徳・教訓などを主たる内容とする和歌のことです。大倉精神文化研究所では、平成5年より14年（1993～2002）まで、道歌資料の収集と研究を行いました。その時収集した道歌関係の和装本コレクションです。

この他に、洋装本（一般図書）や複製本（沿革史資料）も多数収集しています。

研究成果は、『道歌 心の姿見』と『道歌 心のうつし画』の翻刻・解説本として刊行しました。

23 和装本コレクション

点数：約7,000点

大倉精神文化研究所附属図書館では、近世から近代にかけて出版された和装本^{わそうほん}や古文書^{こもんじよ}をたくさん所蔵しています。

それらの中には、古書店からの購入や寄贈等によって数冊、数十冊単位で逐次受入を行い、一般図書と同様に分類、配架してきたものがあります。それらの和装本や古文書類も大変貴重な資料です。本コレクションはそのような和装本や古文書を一括して登録したものです。

その中でも特に資料的価値が高いと思われる一部の古文書類については、「大倉精神文化研究所所蔵近世・近代文書目録(1)」(『大倉山論集』第52輯、平成18年)があります。